

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4005862号

(P4005862)

(45) 発行日 平成19年11月14日(2007.11.14)

(24) 登録日 平成19年8月31日(2007.8.31)

(51) Int. Cl.

F I

E O 4 B 1/00 (2006.01)

E O 4 B 1/00 5 O 3

E O 4 B 1/348 (2006.01)

E O 4 B 1/348 N

E O 4 H 1/02 (2006.01)

E O 4 H 1/02

請求項の数 2 (全 13 頁)

(21) 出願番号 特願2002-201494 (P2002-201494)

(22) 出願日 平成14年7月10日(2002.7.10)

(65) 公開番号 特開2004-44172 (P2004-44172A)

(43) 公開日 平成16年2月12日(2004.2.12)

審査請求日 平成17年6月16日(2005.6.16)

(73) 特許権者 000002174

積水化学工業株式会社

大阪府大阪市北区西天満2丁目4番4号

(72) 発明者 上埜 賢治

茨城県つくば市和台32 積水化学工業株式会社内

審査官 新田 亮二

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 玄関構造

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

少なくとも一対の建物ユニットを隣接配置するユニット建物の外壁部に隣接して一対の玄関ドアが配置された玄関構造であって、

前記各玄関ドアは、前記隣接配置される各々の建物ユニットに設けられて、

該両玄関ドアの上部に前記建物ユニットの外壁部間に跨って、前記外壁部から外側方に突設させた玄関底部材を設けると共に、

前記両玄関ドアの間の外壁部からは、外側方に向けて戸境壁を突設して、

前記玄関底部材を下方から支持する中央柱材を該戸境壁内に一体となるように介装させたことを特徴とする玄関構造。

【請求項2】

前記少なくとも何れか一方の玄関ドアを挟んで、前記戸境壁の設けられた位置の反対側の前記外壁部からは、外側方に向けて見切壁を突設して、

前記玄関底部材を下方から支持する側縁柱材を該見切壁内に一体となるように介装させたことを特徴とする請求項1記載の玄関構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、引込み玄関と同等の視覚効果を有して、外観品質の良好なものとする事ができる玄関構造に関する。

【 0 0 0 2 】

【 従来 の 技 術 】

従来、図 1 0 に示すような引込み玄関を設けた建物ユニットが知られている（特開平 1 1 - 2 4 1 5 1 4 号公報等参照）。

【 0 0 0 3 】

このような引込み玄関では、ユニット建物 1 を構成する複数の建物ユニット U 1 ~ U 4 のうち、玄関ユニット U 4 の内部には、玄関ポーチ 2 及び玄関土間 3 が、玄関収納スペース 4 に隣接されて設けられている。

【 0 0 0 4 】

この玄関ポーチ 2 及び玄関土間 3 の間には、外壁部 5 よりも建物内部に所定距離 L だけ引き込まれた位置に玄関ドア 6 が設けられている。

10

【 0 0 0 5 】

このように構成された引込み玄関では、ユニット建物 1 の外壁部 5 に、玄関ドア 6 が引き込まれた距離差による凹凸が生じて遠近感を醸し出し、外観品質を向上させることが出来る。

【 0 0 0 6 】

また、図 1 1 に示すような特開 2 0 0 1 - 8 1 8 6 0 号公報に記載されたものでは、このような引込み玄関の玄関ポーチ 2 の天井部に、軒天部材 7 を装着して外観品質を更に向上させている。

【 0 0 0 7 】

20

【 発 明 が 解 決 し よ う と す る 課 題 】

しかしながら、上記従来の引込み玄関構造では、玄関ドア 6 を引き込ませて、玄関ポーチ 2 を玄関ユニット U 4 内部に設けているので、屋内スペースが狭くなる。このため、間取りプランの自由度が減少してしまうといった問題があった。

【 0 0 0 8 】

また、他の建物ユニット U 1 ~ U 3 と異なり、内側入隅に防水施工を行ったり、軒天部材 7 を別途設けなければならない等、特殊な構造の玄関ユニット U 4 を用いなければならず、製造コストの増大を招いていた。

【 0 0 0 9 】

そこで、本発明は、上記の問題に鑑みて為されたものであり、屋内スペースを圧迫すること無く、良好な外観品質が得られると共に、製造コストの増大を抑制できる玄関構造を提供することを課題とするものである。

30

【 0 0 1 0 】

【 課 題 を 解 決 す る た め の 手 段 】

上記課題を解決するために、請求項 1 に記載されたものでは、少なくとも一对の建物ユニットを隣接配置するユニット建物の外壁部に隣接して一对の玄関ドアが配置された玄関構造であって、前記各玄関ドアは、前記隣接配置される各々の建物ユニットに設けられて、該両玄関ドアの上部に前記建物ユニットの外壁部間に跨って、前記外壁部から外側方に突設させた玄関底部材を設けると共に、前記両玄関ドアの間の外壁部からは、外側方に向けて戸境壁を突設して、前記玄関底部材を下方から支持する中央柱材を該戸境壁内に一体

40

【 0 0 1 1 】

このように構成された請求項 1 記載のものでは、前記両玄関ドアの間の外壁部から、外側方に向けて突設された戸境壁の内部に中央柱が設けられて、前記一对の両玄関ドアの上部に跨って、前記外壁部から外側方に突設させた玄関底部材が、該中央柱材によって下方から支持されている。

【 0 0 1 2 】

前記玄関底部材及び該戸境壁は、前記玄関ドアが設けられた外壁部面よりも、外側方に向けて突設されていて、端縁が所定量突出されている。このため、玄関ドアを外壁部に略面一に設けたものに比して、屋内スペースを減少させることなく、凹凸によって遠近感を

50

醸し出し、良好な外観品質が得られる。

【 0 0 1 3 】

また、前記両玄関ドアの上部に、両玄関ドアに跨る長さの玄関底部材を設けても、十分な支持強度を得られる。従って、各玄関ドアに個別に底部材を設ける場合に比して、一体感のある外観品質の良好な玄関底部材を 1 つの部品で構成出来ると共に、従来の引込み玄関に設けられていた軒天部材が不要となり、部品点数を増大させることなく、製造コストの増大を抑制できる。

【 0 0 1 4 】

更に、該戸境壁の両側の前記各玄関が、該戸境壁によって分離されて、適度なプライバシーを得られる。このため、集合住宅や、二世帯、多世帯住宅に用いて好適である。

10

【 0 0 1 5 】

また、請求項 2 に記載されたものでは、前記少なくとも何れか一方の玄関ドアを挟んで、前記戸境壁の設けられた位置の反対側の前記外壁部からは、外側方に向けて見切壁を突設して、前記玄関底部材を下方から支持する側縁柱材を該見切壁内に一体となるように介装させた請求項 1 記載の玄関構造を特徴としている。

【 0 0 1 6 】

このように構成された請求項 2 記載のものでは、少なくとも何れか一方の玄関ドアを挟んで、前記戸境壁の設けられた位置の反対側の前記外壁部から突設された見切壁の内部に側縁柱材が設けられている。

【 0 0 1 7 】

20

そして、前記一对の両玄関ドアの上部に跨って、前記外壁部から外側方に突設させた玄関底部材が、該側縁柱材によって下方から支持されている。

【 0 0 1 8 】

このため、更に、該見切壁によっても、前記玄関底部材の荷重が支持されるので、更に十分な支持強度を得られる。

【 0 0 1 9 】

また、従来のような特殊な構造の玄関ユニットを用いる必要が無く、防水施工等が不要又は簡易な玄関ポーチを建物外部に設けることにより、施工も容易に行うことが出来る。

【 0 0 2 0 】

更に、前記建物が、少なくとも一对の建物ユニットを隣接配置するユニット建物であると共に、前記各玄関ドアは、隣接配置される各々の建物ユニットに設けられて、前記玄関底部材を両建物ユニットの外壁部間に跨らせて、前記外壁部から外側方に突設させた上記した玄関構造を特徴としている。

30

【 0 0 2 1 】

このように構成されたものでは、前記各玄関ドアが、隣接配置される各々の建物ユニットに設けられているので、各建物ユニットを隣接配置するだけで、1 つの玄関底部材が、上方を跨いで覆えるように玄関ドアを近接させて設けることができる。

【 0 0 2 2 】

このため、更に施工性が良好で、製造コストの増大を抑制できる。

【 0 0 2 3 】

40

【 発明の実施の形態 1 】

以下、本発明の実施の形態 1 に係る玄関構造を図面を用いて説明する。

【 0 0 2 4 】

図 1 乃至図 7 は、この実施の形態 1 に係る玄関構造を示すものである。なお、前記従来例と同一乃至均等な部分については、同一符号を付して説明する。

【 0 0 2 5 】

まず、構成から説明すると、この実施の形態 1 の玄関構造が適用される建物としてのユニット建物 10 は、複数の建物ユニットを組み合わせで構成される二世帯住宅タイプの建物で、これらの建物ユニットのうち、左右略対称の一对の玄関ユニット 11, 12 が、1 階に隣接配置されると共に、この玄関ユニット 11, 12 の上部には、2 階居室ユニット 1

50

3, 14が載置されていて、各々異なる世帯となる2階居室部分を構成している。

【0026】

この玄関ユニット11, 12の外壁部11a, 12aには、各々左, 右一对の玄関ドア6, 6が、この外壁面と略面一となるように隣接されて設けられている。

【0027】

そして、これらの隣接配置される各々の玄関ユニット11, 12の上縁部と前記2階居室ユニット13, 14の下縁部の合わせ面に沿って、玄関底部材15が、両玄関ユニット11, 12の外壁部11a, 12a間に跨って設けられている。

【0028】

この玄関底部材15は、図1に示すように、前記隣接配置された玄関ドア6, 6の上方に跨って設けられて、これらの外壁部11a, 12a位置よりも外側方に突設するように構成されることにより、これらの玄関ドア6, 6前の玄関ポーチ2, 2上方を略覆うように構成されている。

10

【0029】

この玄関底部材15は、図6に示されるように、前縁部フレーム16, 左, 右側縁フレーム17, 17及び建物側フレーム18によって平面視略長方形形状を呈している。

【0030】

そして、この玄関底部材15の建物側フレーム18は、固定金具19, 19を介在させて、複数のボルト部材20...及びナット部材21...等によって、前記玄関ユニット11, 12の上側フレーム11b, 12bに締結固定されている。

20

【0031】

更に、前記前縁部フレーム16, 左, 右側縁フレーム17, 17の外周縁には、複数の支持金具22...を介して、上, 下パラペット部材23, 24が装着されている。

【0032】

また、この玄関底部材15の上面側には、図3に示すように、平板上の屋根面部材25が敷設されている。この屋根面部材25には、周囲の軒カバー部材26..., 及びこの屋根面部材25上面から流下する雨水が、前記2階居室ユニット13, 14の外壁部13a, 14a下縁に沿って延設される樋部材27内に集水可能となるように、ユニット建物10方向に向けて傾斜する緩勾配が与えられている。

【0033】

30

更に、この玄関底部材15の下面側には、平板状の軒天パネル部材28が、周縁に設けられた軒天廻縁部材29によって下側から抑えられて、内側に設けられた複数の栈木30...に、木ネジ31...等によって固着されている。

【0034】

また、図6に示すように、この玄関底部材15の長手方向略中央には、中央梁材32が設けられている。この中央梁材32は、図5に示すように、主に上面部32a及び左, 右側面部32b, 32bから構成される下方を開放した断面略コ字状を呈している。このうち、前記上面部32aには、位置決め用孔32cが開口形成されると共に、左, 右側面部32b, 32bには、ボルト孔32d, 32dが一对づつ開口形成されている。

【0035】

40

そして、これらの玄関ユニット11, 12の境界部に位置する前記両玄関ドア6, 6の間の外壁部11a, 12aからは、外側方に向けて戸境壁33が延設されている。

【0036】

この戸境壁33は、図7に示すように、主に、前記玄関底部材15を下方から支持する中央柱材34及び建物側フレーム材35が、壁面パネル本体37, 37の裏面側に固定用フレーム枠体38, 38が装着された面状の壁部材36, 36によって、左, 右両側から挟持されることにより、この戸境壁33内に一体となるように介装されて、所定の左右方向の厚みH1を有するように構成されている。この戸境壁33の厚みH1は90cm以上であるのが望ましく、本実施例では厚みH1を100cmとしている。

【0037】

50

このうち、前記建物側フレーム材 3 5 は、取付金具 3 9 を介して、前記各玄関ユニット 1 1 , 1 2 の隣接する柱フレーム 1 1 c , 1 2 c にタッピングネジ 4 0 , 4 0 によって固着されていて、外壁部 1 2 a 等との境界が、戸境壁見切部材 3 7 a 等によって覆われている。

【 0 0 3 8 】

また、前記中央柱材 3 4 は、中空断面略口字状を呈し、外側面 3 4 a 及び左 , 右両側面 3 4 b , 3 4 b の一部が、タッピングビス 4 1 a ... で固定される水平断面略コ字状の化粧部材 4 1 によって覆われると共に、この化粧部材 4 1 の後端面と、前記壁部材 3 6 , 3 6 の前端縁との間に、ガスケット部材 4 2 , 4 2 が介装されている。

【 0 0 3 9 】

更に、この中央柱材 3 4 の上部では、図 5 に示されるように、左 , 右側面部 3 4 b , 3 4 b から取付凸状金具部 3 4 c , 3 4 c が凸設されている。

【 0 0 4 0 】

そして、この取付凸状金具部 3 4 c の左 , 右の取付面部には、前記ボルト孔 3 2 d , 3 2 d に対応する位置にボルト孔 3 4 d , 3 4 d が一対づつ開口形成されている。

【 0 0 4 1 】

この取付面部のボルト孔 3 4 d , 3 4 d 裏面側には、取付ボルト 4 3 , 4 3 に螺合するナット部材 4 4 , 4 4 が、各々溶接によって固着されている。

【 0 0 4 2 】

更に、この中央柱材 3 4 の上面部 3 4 e には、前記位置決め用孔 3 2 c に挿入されて、前記玄関底部材 1 5 の位置決めを行うロケートピン 3 4 f が立設されている。

【 0 0 4 3 】

また、この戸境壁 3 3 内には、前記樋部材 2 7 に集水された雨水を下方に向けて流下させる縦樋部材 5 3 が、略鉛直方向に長手方向を沿わせて延設されている。

【 0 0 4 4 】

更に、この実施の形態 1 では、前記左 , 右の各玄関ドア 6 , 6 を挟んで、前記戸境壁 3 3 の設けられた位置とは、反対側の前記外壁部 1 1 a , 1 2 a からは、見切壁 4 5 , 4 5 が外側方に向けて延設されている。

【 0 0 4 5 】

この見切壁 4 5 は、図 7 に示すように、主に、前記玄関底部材 1 5 を下方から支持する側縁柱材 4 6 及び建物側フレーム材 4 7 が、壁面パネル本体 4 9 , 4 9 の裏面側に固定用フレーム枠体 5 0 , 5 0 が装着された面状の壁部材 4 8 , 4 8 によって、左 , 右両側から挟持されることにより、この見切壁 4 5 内に一体となるように介装されて、所定の左右方向の厚み H 2 を有するように構成されている。この見切壁 4 5 の厚み H 2 は 4 0 c m 以下であるのが望ましく、本実施例では厚み H 2 を 3 0 c m としている。

【 0 0 4 6 】

このうち、前記建物側フレーム材 4 7 は、取付金具 5 1 を介して、前記各玄関ユニット 1 1 , 1 2 の外壁部 1 1 a , 1 2 a の裏面側に設けられたスタッド 1 1 d , 1 2 d にタッピングネジ 4 0 , 4 0 によって固着されていて、外壁部 1 2 a 等との境界にガスケット 5 2 , 5 2 等が介装されている。

【 0 0 4 7 】

また、前記側縁柱材 4 6 は、外側面 4 6 a 及び左 , 右両側面 4 6 b , 4 6 b の一部が、タッピングビス 4 1 a ... で固定された水平断面略コ字状の化粧部材 4 1 で覆われると共に、この化粧部材 4 1 の後端面と、前記壁部材 4 8 , 4 8 の前端縁との間に、ガスケット部材 4 2 , 4 2 が介装されている。

【 0 0 4 8 】

更に、この側縁柱材 4 6 の上部が、前記図 5 に示される中央柱材 3 4 と略同様に、前記玄関底部材 1 5 の左 , 右両端縁に下方から当接されて支持されるように構成されている。

【 0 0 4 9 】

この実施の形態 1 では、前記見切壁 4 5 , 4 5 の前記外壁部 1 1 a , 1 2 a からの突設長

10

20

30

40

50

さが、前記戸境壁 3 3 の前記外壁部 1 1 a , 1 2 a からの突設長さよりも短くなるように構成されている。

【 0 0 5 0 】

次に、この実施の形態 1 の玄関構造の作用について説明する。

【 0 0 5 1 】

この実施の形態 1 の玄関構造では、玄関ユニット 1 1 , 1 2 を隣接して配置することにより、前記玄関ユニット 1 1 , 1 2 の外壁部 1 1 a , 1 2 a に設けられた玄関ドア 6 , 6 が、両玄関ドア 6 , 6 の間の外壁部 1 1 a , 1 2 a の境界を挟んで、隣接して設けられる。

【 0 0 5 2 】

次に、前記両玄関ドア 6 , 6 の間の外壁部 1 1 a , 1 2 a の境界から、外側方に向けて戸境壁 3 3 を設置すると共に、前記見切壁 4 5 , 4 5 を設置する。 10

【 0 0 5 3 】

この際、前記外壁部 1 1 a , 1 2 a の境界から延設された戸境壁 3 3 の内部に中央柱材 3 4 が設けられて、前記一对の両玄関ドア 6 , 6 の上部に跨って、前記外壁部 1 1 a , 1 2 a から外側方に突設させた玄関底部材 1 5 が、この中央柱材 3 4 によって下方から支持されている。

【 0 0 5 4 】

前記玄関底部材 1 5 及びこの戸境壁 3 3 は、前記玄関ドア 6 , 6 が設けられた外壁部 1 1 a , 1 2 a の壁面よりも、ユニット建物 1 0 外側方に向けて延設されていて、端縁が所定量突出されている。 20

【 0 0 5 5 】

このため、玄関ドア 6 , 6 を外壁部に略面一に設けたものに比して、屋内スペースを減少させることなく、凹凸によって遠近感を醸し出し、良好な外観品質が得られる。

【 0 0 5 6 】

また、前記両玄関ドア 6 , 6 の上部に、両玄関ドア 6 , 6 に跨る長手方向長さの玄関底部材 1 5 を設けても、十分な支持強度を得られる。従って、各玄関ドア 6 , 6 に個別に底部材を設ける場合に比して、一体感のある外観品質の良好な玄関底部材を 1 つの部品で構成出来ると共に、従来の引込み玄関に設けられていた軒天部材等が不要となり、部品点数を増大させることなく、製造コストの増大を抑制できる。

【 0 0 5 7 】

更に、この戸境壁 3 3 の両側の前記各玄関 6 , 6 が、この戸境壁 3 3 によって分離されて、適度なプライバシーを得られる。このため、集合住宅や、二世帯、多世帯住宅に用いて好適である。 30

【 0 0 5 8 】

また、前記玄関ドア 6 , 6 を挟んで、前記戸境壁 3 3 設けられた位置の反対側の前記外壁部 1 1 a , 1 2 a から見切壁 4 5 , 4 5 が延設されている。

【 0 0 5 9 】

この見切壁 4 5 , 4 5 の内部には、側縁柱材 4 6 , 4 6 が設けられている。

【 0 0 6 0 】

このため、前記一对の両玄関ドア 6 , 6 の上部に跨って、前記外壁部から外側方に突設させた玄関底部材 1 5 の左 , 右両側縁が、これらの各側縁柱材 4 6 , 4 6 によって下方から支持される。 40

【 0 0 6 1 】

従って、更に、この見切壁 4 5 , 4 5 によっても、前記玄関底部材 1 5 の荷重が支持されるので、更に十分な支持強度を得られる。

【 0 0 6 2 】

また、従来のような特殊な構造の玄関ユニットを用いる必要が無く、防水施工等が、不要又は簡易な玄関ポーチ 2 , 2 が建物外部に設けられることにより、施工も容易に行うことが出来る。

【 0 0 6 3 】

更に、前記各玄関ドア 6 , 6 が、隣接配置される各々の建物ユニット 1 1 , 1 2 に設けられているので、各建物ユニット 1 1 , 1 2 を隣接配置するだけで、1つの玄関底部材 1 5 が、上方を跨いで覆えるように玄関ドア 6 , 6 を近接させて設けることができる。

【 0 0 6 4 】

このため、更に施工性が良好で、製造コストの増大を抑制しつつ、前記戸境壁 3 3 及び見切壁 4 4 によって、相対的に玄関ドア 6 , 6 を引き込ませるような視覚的效果を得られる玄関構造を提供できる。

【 0 0 6 5 】

しかも、この実施の形態 1 では、前記見切壁 4 5 , 4 5 の前記外壁部 1 1 a , 1 2 a からの突設長さが、前記戸境壁 3 3 の前記外壁部 1 1 a , 1 2 a からの突設長さよりも短くなるように構成されている。

10

【 0 0 6 6 】

このため、過剰な閉鎖感が無く、また、玄関部分の意匠（例えば、ドアや壁の外装仕上げ等）を外部にアピール出来、更に、外観品質を良好なものとすることができる。

【 0 0 6 7 】

【実施の形態 2】

図 8 及び図 9 は、この発明の実施の形態 2 の玄関構造を示すものである。なお、前記実施の形態 1 と同一乃至均等な部分については同一符号を付して説明する。

【 0 0 6 8 】

この実施の形態 2 のユニット建物 1 1 0 では、実施の形態 1 の前記玄関底部材 1 5 に代えて、2階居室部を構成する2階居室ユニット 1 1 3 , 1 1 4 に跨って設けられたキャンチバルコニー 1 1 5 が、戸境壁 1 3 3 内の中央柱材 3 4 及び左、右の見切壁部 1 4 5 , 1 4 5 内の側縁柱材 4 6 , 4 6 によって下方から支持されている。

20

【 0 0 6 9 】

このキャンチバルコニー 1 1 5 は、主に、屋根面部材 1 2 5 の上面側に、床フレーム部材 6 1 , 6 2 を複数の小梁床フレーム部材 6 3 ... によって略梯子状に連結して構成される骨格部 6 0 が形成されている。

【 0 0 7 0 】

この骨格部 6 0 の上面には、床パネル部材 6 4 及び樋部材 6 5 が敷設されると共に、この床パネル部材 6 4 周囲が、手摺部 6 6 が上部に形成された周壁部 6 7 によって囲まれて構成されている。

30

【 0 0 7 1 】

また、このキャンチバルコニー 1 1 5 の長手方向略中央部には、前記戸境壁 1 3 3 に対応する位置に、2階部分の世帯を分離する界壁 6 8 が設けられている。

【 0 0 7 2 】

更に、この実施の形態 2 では、前記各戸境壁 1 3 3 の側壁面部及び見切壁 1 4 5 の側壁面部に前記玄関ユニット 1 1 , 1 2 の外壁部 1 1 a , 1 2 a と略同一の模様を構成するタイル部材が貼設されている。

【 0 0 7 3 】

次に、この実施の形態 2 の作用に付いて説明する。

40

【 0 0 7 4 】

このように構成された実施の形態 2 の玄関構造では、前記実施の形態 1 の作用効果に加えて、更に、所定の重量を有する前記キャンチバルコニー 1 1 5 であっても、前記戸境壁 1 3 3 内の中央柱材 3 4 及び見切壁 1 4 5 , 1 4 5 内の側縁柱材 4 6 , 4 6 によって下方から支持されるので、荷重が、各柱材 3 4 , 4 6 ... に分散されて、容易に十分な支持強度を得られる。

【 0 0 7 5 】

従って、2世帯に跨るような大型のキャンチバルコニー 1 1 5 を設定することが可能となり、更に、設計の自由度を向上させることが出来る。

【 0 0 7 6 】

50

また、この実施の形態 2 では、前記各戸境壁 1 3 3 の側壁面部及び見切壁 1 4 5 の側壁面部に前記玄関ユニット 1 1 , 1 2 の外壁部 1 1 a , 1 2 a と略同一の模様を構成するタイル部材が貼設されている。このため、更に、前記各戸境壁 1 3 3 及び見切壁 1 4 5 ... 1 4 5 と、玄関ユニット 1 1 , 1 2 との調和が図られ、外観品質を良好なものとする事が出来る。

【 0 0 7 7 】

他の構成、及び作用効果については、前記実施の形態 1 と同様であるので説明を省略する。

【 0 0 7 8 】

以上、実施の形態 1 , 2 の玄関構造を図面を用いて詳述してきたが、本発明に係る玄関構造は、前記実施の形態 1 , 2 において示したものには限定されない。

10

【 0 0 7 9 】

例えば、前記実施の形態 1 では、前記見切壁 4 5 , 4 5 の前記外壁部 1 1 a , 1 2 a からの突設長さが、前記戸境壁 3 3 の前記外壁部 1 1 a , 1 2 a からの突設長さよりも短くなるように構成されているが、特にこれに限らず、例えば、前記戸境壁 3 3 の前記外壁部 1 1 a , 1 2 a と略同様に、前記見切壁 4 5 の突設長さを設定したり、或いは、これらの見切壁 4 5 , 4 5 を設けなくて、前記戸境壁 3 3 のみの構成とする等、前記戸境壁 3 3 及び見切壁 4 5 の数量、形状、寸法を適宜変更する等、外壁部から、外側方に向けて戸境壁を延設するものであれば、発明の要旨を逸脱しない設計的事項の変更等も、本発明に含まれる。

20

【 0 0 8 0 】

また、建物として、二世帯住宅仕様のユニット建物を示して説明してきたが、特にこれに限らず、アパート仕様のユニット建物等、多世帯住宅で、玄関ドアが建物の外壁部に隣接して一対配置されているものであるならばよい。

【 0 0 8 1 】

【発明の効果】

以上説明してきたように、請求項 1 に記載された発明では、前記両玄関ドアの間の外壁部から、外側方に向けて延設された戸境壁の内部に中央柱が設けられて、前記一対の両玄関ドアの上部に跨って、前記外壁部から外側方に突設させた玄関底部材が、該中央柱材によって下方から支持されている。

30

【 0 0 8 2 】

前記玄関底部材及び該戸境壁は、前記玄関ドアが設けられた外壁部面よりも、外側方に向けて延設されていて、端縁が所定量突出されている。このため、玄関ドアを外壁部に略面に設けたものに比して、屋内スペースを減少させることなく、凹凸によって遠近感を醸し出し、良好な外観品質が得られる。

【 0 0 8 3 】

また、前記両玄関ドアの上部に、両玄関ドアに跨る長さの玄関底部材を設けても、十分な支持強度を得られる。従って、各玄関ドアに個別に底部材を設ける場合に比して、一体感のある外観品質の良好な玄関底部材を 1 つの部品で構成出来ると共に、従来の引込み玄関に設けられていた軒天部材が不要となり、部品点数を増大させることなく、製造コストの増大を抑制できる。

40

【 0 0 8 4 】

更に、該戸境壁の両側の前記各玄関が、該戸境壁によって分離されて、適度なプライバシーを得られる。このため、集合住宅や、二世帯、多世帯住宅に用いて好適である。

【 0 0 8 5 】

また、請求項 2 に記載されたものでは、少なくとも何れか一方の玄関ドアを挟んで、前記戸境壁の設けられた位置の反対側の前記外壁部から延設された見切壁の内部に側縁柱材が設けられている。

【 0 0 8 6 】

そして、前記一対の両玄関ドアの上部に跨って、前記外壁部から外側方に突設させた玄関

50

底部材が、該側縁柱材によって下方から支持されている。

【0087】

このため、更に、該見切壁によっても、前記玄関底部材の荷重が支持されるので、更に十分な支持強度を得られる。

【0088】

また、従来のような特殊な構造の玄関ユニットを用いる必要が無く、防水施工等が不要又は簡易な玄関ポーチを建物外部に設けることにより、施工も容易に行うことができる。

【0089】

更に、請求項3に記載されたものでは、前記各玄関ドアが、隣接配置される各々の建物ユニットに設けられているので、各建物ユニットを隣接配置するだけで、1つの玄関底部材が、上方を跨いで覆えるように玄関ドアを近接させて設けることができる。

10

【0090】

このため、更に施工性が良好であると共に、製造コストの増大を抑制できる、という実用上有益な効果を発揮する。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施の形態1に係る玄関構造で、ユニット建物の玄関部の斜視図である。

【図2】実施の形態1に係る玄関構造で、図1中B - B線に沿った位置に相当する玄関部の水平断面での配置を説明する模式図である。

【図3】実施の形態1の玄関構造で、図2中C - C線に沿った位置での断面図である。

20

【図4】実施の形態1の玄関構造で、図2中D - D線に沿った位置での断面図である。

【図5】実施の形態1の玄関構造で、玄関底部材を戸境壁に装着する様子を説明する分解斜視図である。

【図6】実施の形態1の玄関構造で、図1中A方向矢視に相当する玄関底部材の一部断面上面図である。

【図7】実施の形態1の玄関構造で、図1中B - B線に沿った位置での断面図である。

【図8】実施の形態2の玄関構造で、玄関部の斜視図である。

【図9】実施の形態2の玄関構造で、図2中C - C線に沿った位置に相当する位置での断面図である。

【図10】一従来例の玄関構造で、玄関ユニット内の玄関ドア等の配置を説明する水平方向断面図である。

30

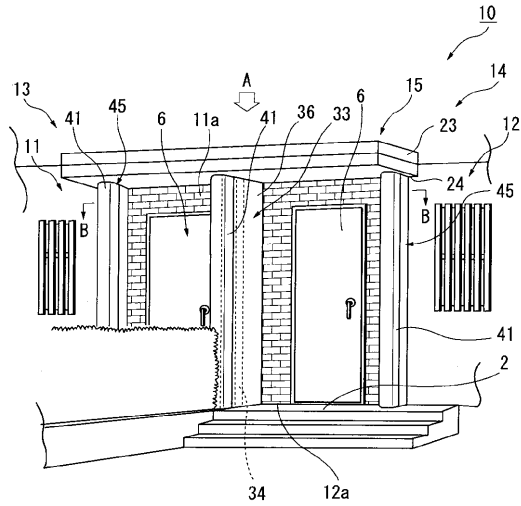
【図11】他の従来例の玄関構造で、玄関ユニット内に軒天部材が設けられている様子を説明する鉛直断面図である。

【符号の説明】

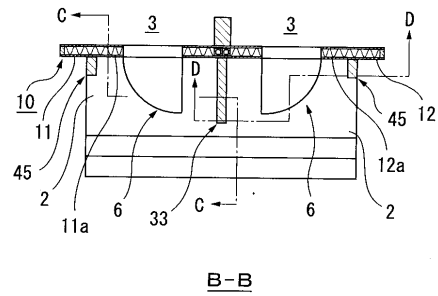
6	玄関ドア
10, 110	免震建物
11, 12	玄関ユニット
11a, 12a	外壁部
13, 14, 113, 114	
2	階居室ユニット
15	玄関底部材
33, 133	戸境壁
34	中央柱材
45, 145	見切壁部
115	キャンチバルコニー

40

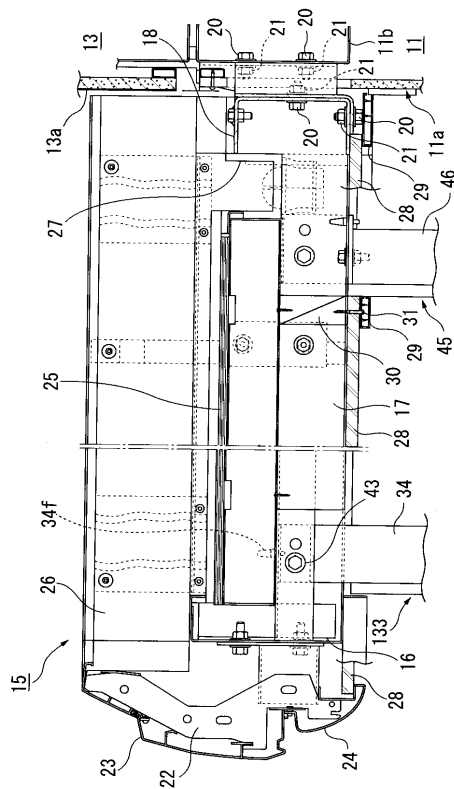
【図 1】



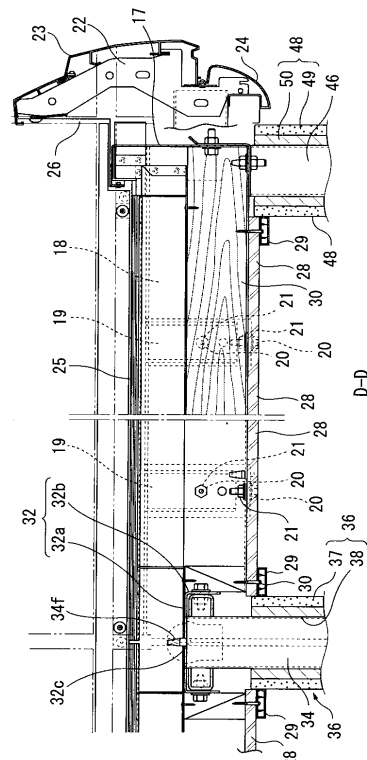
【図 2】



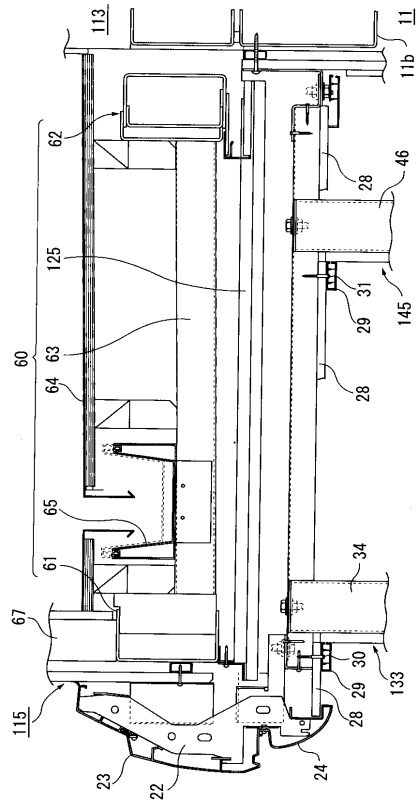
【図 3】



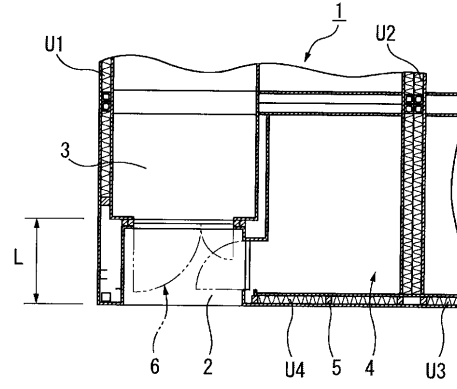
【図 4】



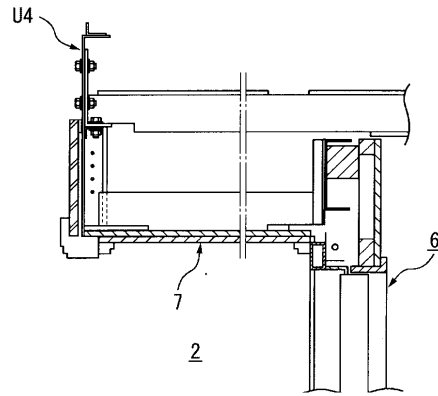
【図 9】



【図 10】



【図 11】



フロントページの続き

- (56)参考文献 特開2001-107577(JP,A)
特開平10-140858(JP,A)
特開2002-061398(JP,A)
特開平05-263463(JP,A)
特開平10-131283(JP,A)
特開2002-038695(JP,A)
(社)新日本建築家協会,DA建築図集 低層集合住宅2 集合住宅による街づくり,日本,株式会社彰国社,1983年 3月20日,第1版,第62,63頁
(社)日本建築家協会,DA建築図集 低層集合住宅1 街のコアとしての集合住宅,日本,株式会社彰国社,1983年 1月10日,第1版,第46~49頁

(58)調査した分野(Int.Cl.,DB名)

E04B 1/00
E04B 1/348
E04H 1/02